

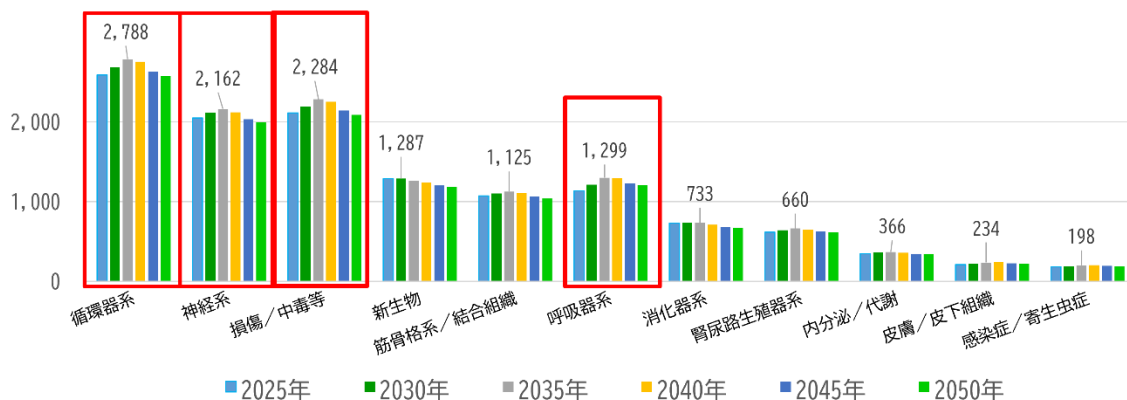
図表 54：新病院の規模と施設のあり方

機能・規模面
強みであるがん診療および政策医療の機能を更に充実させるとともに、将来の医療需要を見据えた適正な病床数に見直す。 ・がんセンターとして質の高いがん診療の提供と、高度化に対応する専門人材の育成 ・がんゲノム医療をはじめ、先進的な医療の提供を図るための大学病院・地域の病院との連携強化 ・地域における医療水準の向上につながる治験・臨床研究の推進 ・周産期医療や感染症医療、災害医療といった政策医療において、常にフロントラインで対応する機能 ・周辺病院の状況も踏まえ、将来の医療需要を見据えた適正な病床数ヘダウンサイジング
施設・設備面
質の高い医療を有事においても提供しつつ、将来の医療需要に応じて、医療機能の変更や診療科の拡大・縮小に柔軟に対応できるフレキシブルな構造を採用する。 ・質の高い医療を安全・安心に提供できる施設 ・患者も職員も満足度の高いユニバーサルデザインな施設 ・将来のレイアウト変更に備えた内部柱の少ない構造や配管・配線類の変更を容易にする二重床など、医療需要の変化に柔軟に対応できる構造 ・災害への強靱性を持ち、災害発生時にも質の高い医療を提供できる免震構造

図表 55：北九州二次医療圏における推計入院患者数

- 北九州二次医療圏における入院数推移は、2030年から2040年をピークにその後減少傾向
- ・循環器、神経、損傷/中毒、呼吸器は、2025年と比較して2035年に6%~14%増加した後、減少傾向となり、2050年では、2025年と比較して-3%~6%増加で推移（それ以外は大きく変わらないと見込まれる）

■ 北九州二次医療圏における入院患者数の推移



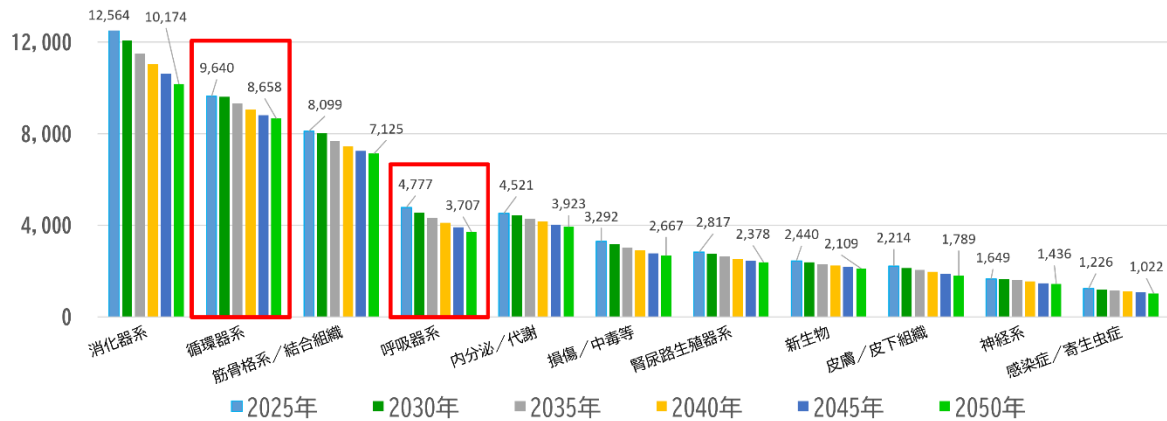
【出典】 国立社会保障・人口問題研究所 都道府県・市区町村別の男女・年齢（5歳）階級別将来推計人口-『日本の地域別将来推計人口』（令和5年推計）、令和5年患者調査 都道府県編 『閲覧第11表（その2）推計患者数（患者住所地）』、性・年齢階級（10歳）×傷病中分類×入院-外来・都道府県別（入院）』

図表 56：北九州二次医療圏における推計外来患者数

○ 北九州二次医療圏における外来数推移は、2050年にかけて減少傾向

- ・ 外来数推移は、2025年と比較して、呼吸器は-22.4%で最も減少の割合が高く、最も緩やかな循環器は-10.2%の減少が見込まれる

■ 北九州二次医療圏における外来患者数の推移



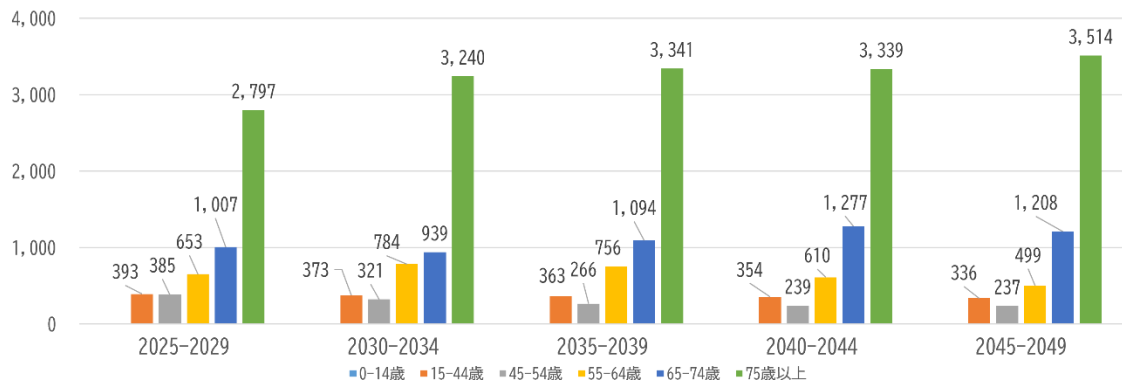
【出典】国立社会保障・人口問題研究所 都道府県・市区町村別の男女・年齢（5歳）階級別将来推計人口-『日本の地域別将来推計人口』（令和5年推計）、令和5年患者調査 都道府県編 『閲覧第1表（その2）推計患者数（患者住所地）、性・年齢階級（10歳）×傷病中分類×入院-外来・都道府県別（外来）』

図表 57：北九州二次医療圏におけるがん有病数の推計（全部位）の推移

○ 北九州二次医療圏におけるがん有病数の推計（全部位）では、75歳以上のがん有病数は今後増加する見込みであり、高齢化するがん患者の受け入れに対応することが求められる

- ・ 0歳から54歳のがん有病数は、将来にかけて減少する見込み
- ・ 65歳から74歳のがん有病数は、2040年-2044年まで増加し、その後減少する見込み
- ・ 75歳以上のがん有病数は、2030年-2034年まで1.16倍に増加したのち、横ばい傾向となる見込み

■ 北九州二次医療圏におけるがん有病数の推計（全部位）の推移



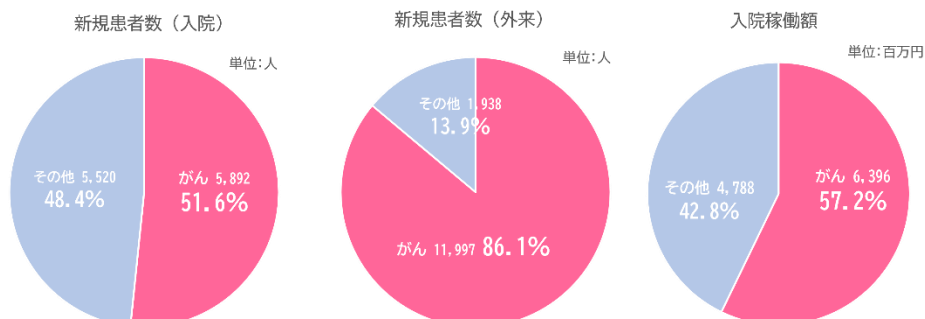
【出典】国立社会保障・人口問題研究所 都道府県・市区町村別の男女・年齢（5歳）階級別将来推計人口-『日本の地域別将来推計人口』（令和5年推計）、Cancer Prevalence Projections in Japan and Decomposition Analysis of Changes in Cancer Burden, 2020-2050: A Statistical Modeling Study. Cancer Epidemiol Biomarkers Prev 2023;32:1756-70（国立研究開発法人国立がん研究センター公式サイト『4.将来推計』より）

【有病数】過去5年以内にがんと診断され、推計対象年に生存している者の数（5年有病数）

図表 58：患者構成

- 医療センターにおけるがん診療の割合は入院、外来ともに高くなっており、今後も増加が見込まれるがん患者に対応していく必要がある
- ・入院新規患者数、入院稼働額では5割超、外来新規患者数では8割超をがん診療が占めている

当院のがん診療の割合（R5実績）



- がん診療を強みとする医療センターにおいては、高齢の入院患者が多く、今後も高齢患者の増加が見込まれる
- ・入院患者のうち75歳以上の割合が最も高く、半数以上が65歳以上となっている
- ・がんの入院患者については約7割が65歳以上となっている

当院の患者の年齢割合（R5実績）

